

社会科教室 129号

平成4年度

社会科教育研究のあゆみ

第29回 全国社会科教育研究大会 分科会記録

- ・講演記録
- ・定例会

香川県小学校教育研究会社会部会

香川県社会科教育研究会

香社研だより

平成4年2月号

平成4年2月23日

発行者
香川県社会科教育
研究会

研究大会の準備状況について

香川県社会科教育研究会

会長 川田豊弘

平成四年度に本県で開催する第二十九回全国社会科教育研究大会の準備の進行状況は現在のところ次のようになっている。

一、四国社会科教育連絡協議会の開催

平成三年十一月十六日(土)、高松市内のさぬき会館に四国四県の小中、高校の各会長、事務局長等三十五名が集まって、第二十九回全国社会科教育研究大会(香川大会)の開催期日、会場、会費等について協議を行い、次の申し合わせを行っている。

(一) 開催期日

平成四年十一月十三日(金)
なお、小、中学校は前日の十二日(木)に前夜祭を行う。

(二) 開催地と会場

小：大内町(二本松小)
中：丸亀市(総合会館、西中、東中、南中)
高：高松市(教育会館、ラポール、教育センター)

(三) 研究主題

小：新しい学力観に立つ社会科学習の展開
——問いと論証の調べ学習を基礎として——
中：人間性豊かな生徒の育成をめざす社会科教育
——判断力を高める社会科学指導のあり方——
高：社会科教育の果たした役割と今後の展望

(四) 会費

校種別各県負担金 四万円
一般個人会費 三五〇〇円

二、三本松会場に関する関係方面への根まわし

(一) 共催・後援

四国四県の県教委、県内関係市町教委、NHK等マスコミ関係へ共催、後援を依頼し、了承を得た。

(二) 諸経費

関係機関に補助金交付を申請し、次のように内定をみた。
香川県教育委員会 一〇万円
大内町教育委員会 四〇万円
香川県小学校教育研究会 二〇万円

三、三本松会場校における研究会

会場校である三本松小学校は大川郡社会科教育研究会とともに鋭意研究を進められている。本部としては、十一月二十七日、三本松小学校における研究会に私と池田孝徳研究部長とが出席し、「新しい学力観」についての各種の研究論文を紹介するなどして理論研究の援助を行った。こうした援助を二月十九日にも再び行った。

四、中央講師の依頼

昨年度に御指導いただいた水越敏行先生は先約があり、残念ながらおいでいただけません。文部省教科調査官から筑波大学へ転出された高野尚好先生、上智

大学の加藤幸次先生、文部省教科調査官の先生の三人の先生方において願えるよう現在交渉中である。

五、現在の問題点

現在、問題になっていることは、夏季研修会の期日と持ち方である。フリーにしておく各種行事が入りまじるので、例年、県教育委員会事務局が中心になって行事調整を行っている。その結果、香小研の教科関係の夏季研修会は、夏季休業に入ってから二週間後の八月上旬に行っている。

これまでこの時期に香社研は研究授業を中核とする夏季研修会を実施してきた。

このことについて、暑い時期であるし、夏季休業に入って十数日たっているので、子供を登校させて研究授業をするのは無理ではないかという議論が起こっている。

具体的にいうと、子供を連れて里帰りしたり旅行したりしようとする家庭を束縛することになるが、それは許されるのかということである。

このことは現在行っている土曜日の午後の月例研究会にもあてはまることであろう。

学校週五日制時代に入ろうとする今日である。休業中とか土曜日の午後とかに研究授業を行うことはきわめて困難な状況となってきた。どのように対応していけばよいか、考慮中である。

第29回 全国社会科教育

研究大会を迎えて

研究部

四国大会研究主題—小学校部会主題—
 「新しい学力観に立つ社会科学学習」
 「問い」と「論証」の調べ学習の展開—

1 新しい学力観に立つ教育

新しい学力観に立つ教育では、子供たちが、生涯にわたって社会の変化に対応し、主体的に生きていくために人間としての生き方、在り方について自分の考えをしっかりとつようにすることが強く求められている。新学習指導要領の主張は、

- ①自ら学ぶ意欲の重視
 - ②社会の変化に対応する能力の育成
 - ③基礎・基本の内容の重視
 - ④個性を生かす教育の重視
- そして、新しい教育課程の趣旨

は、「自ら学ぶ意欲の重視と社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するとともに、基礎的・基本的内容を重視し、個性を生かす教育を一層充実すること」を基本的なねらいとしている。

このことを新しい教育課程による教育は、「個性を生かす教育」「子供の側に立つ教育」「子供中心の教育」「新学力観に立つ教育」などと表現され、子供の期待や願いに応える教育を創造することが求められている。このようなことから、新しい教育を展開するにあたって、教師の教育観の転換が求められるのである。

新学習指導要領の四つの主張点から、

- ①学ぶ意欲の重視
- ②社会の変化に対応する能力の育成
- ③思考力、判断力、表現力などの育成
- ④その子なりのよさの発揮が新しい学力と言えるのである。

これまでの学力観が知識・理解・技能を獲得することを重視したものに比べ、新しい学力観は、能動的に物事の根底にある諸関係を正しくとらえ、考え、表現、実践する能力ということが出来る。そしてこのことは、子供一人一人の自己実現を図ることなのである。

2 新しい学力観に立つ教育は、自己実現を図る教育である。

(1) 自己実現に生きる学力
 人間は、自分の可能性を發揮し、よく考え、よく判断し、人間として、生き方としての考えをもつ存在であるといわれている。人間としての生き方について自分の考えをもつということは、人間としての豊かさを求めて、主体的な人間として生きるということである。

即ち、児童の自己実現に生きて働

く思考力、判断力、表現力、実践力を育成する必要がある。従って、日々の学習指導は、児童一人一人が主体的に自分なりの生き方や考え方を、即ち、自分の思いに基づいて経験したり、学んだりしたことなどを生かしながら、興味や関心のあることなど新しい課題に進んでかわり、自ら考えたり、表現したりすることを基盤にして展開する必要がある。また、子供は、自己表現することを通して、自我が今まで経験したことのない経験をし、創造的な表現活動を行うことによって、新しい自己を開発し、新しい自己と出会うことができるのである。即ち、人間は、自己表現を通して、自己自身の問題に取り組み、そこでの経験を通して、新しい自己を作り上げていくという建設的な営みを行うことができるのである。

このようなことから、自己実現への過程は、自己表現の営みとして表現、自己表現は自己実現への道を切り開くのである。

従って、これからの教育においては、子供自ら考え、判断し、積極的に取り組んでいくような主体的な学習を重視するとともに、子供が自分よさなどを生かしながら、豊かな自己実現を目指して生きていくけるよう豊かな表現力を育成することに力

を注がなければならないのである。

(2) 個性を生かす教育を推進する教育課程の編成
 個性を生かす教育を推進していく上での視点を三つあげることとする。

ア

①子供が自分の伸びていく姿を見つめ、自分の「よさ」を認識する。(自己評価)このことを子供が大事にしていることに共感し、援助する教師によって「個性を生かす教育」が可能になる。

②個性を生かす教育は、子供が自分の足で正しい道をしつかりと歩き、逃げやごまかしをすることなく、困難なことに負けず、常に相手の立場に立って堂々と生きていくことを目指す。(人間としての自立を強く求める教育)

③個性を生かすための基礎・基本という考え方に立つ

以上、個性を生かす教育について述べたが、個性の教育とは、教師の在り方にかかわっているのである。これは、方法論ではなく、教師改造なのである。即ち、援助する教師であるという教師改造である。

イ 教育課程編成の三類型

教育課程の編成については、「個性ある学校づくり」ということで、その校の特色ある教育課程の編成が叫ばれている。

左図に示したように、(ア)基礎・基本を重視した編成、(イ)学ぶ力を重視した編成、(ウ)個性を生かすことを重視した編成に大別される。

この(ア)の三類型は、それぞれ特色を持っている。書く基準、発表する基準、社会のルールを守る基準、即ち、基礎的・基本的な事項を重視しているのが(ア)の基礎・基本を重視した編成なのである。(ウ)を基盤として(イ)、(ウ)が成立し、資質が向上していくのである。

(ウ)の個性を生かすことを重視した編成については、子供の自己実現を図っていくということから、低学年で培った自己認識の芽をどう中学年・高学年に発展、継続させていくかを特色としているものである。個性を生かす教育を推進していくには、教育課程の中に総合学習の位置

づけが重要になってくるのである。

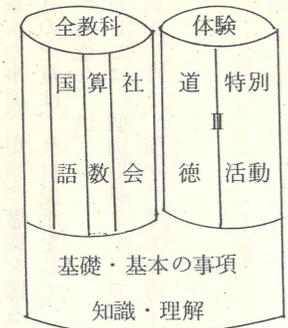
(3) 新学力観と授業改善
 新しい教育が目指す学力観が叫ばれている中で、香社研の課題として次の二つをあげておく。

ア、新しい学力観に立つ教育は、次の三つの授業の類型による授業改善によって進めることができる。

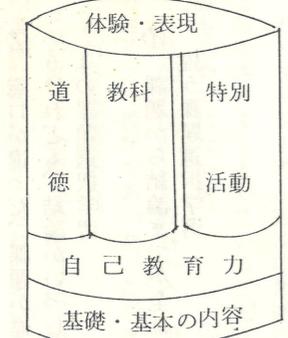
イ、授業の三類型に応じた自己評価と他者評価とそれに伴う援助のあり方が課題となる。

【教育課程編成の3類型】

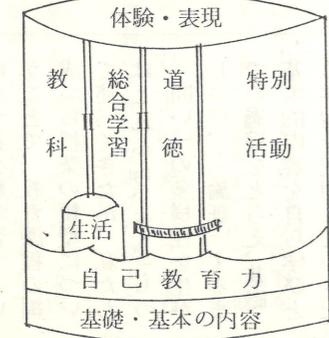
基礎・基本を重視した編成



学ぶ力の育成を重視した編成

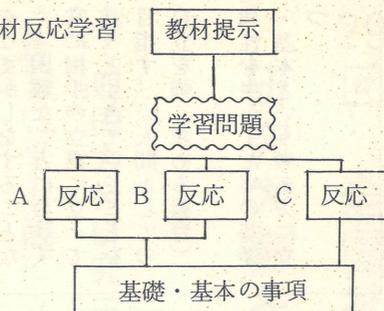


個性を生かすことを重視した編成



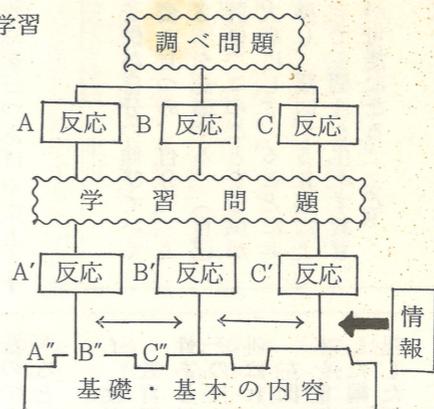
【授業の3類型】

① 教材反応学習



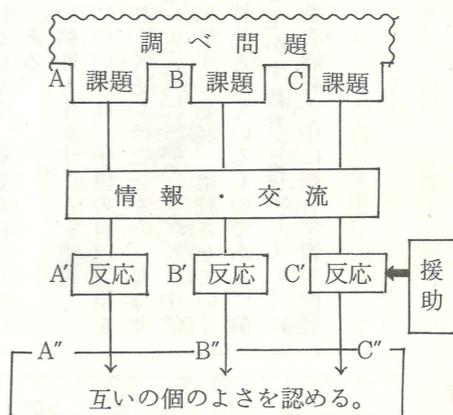
毎日、十五分とか、二十分とか、地図指導や資料の読み取りをして、基礎・基本の事項、用語の徹底を図る。A・Bの児童は、教材提示をして、練習が可能な子供。Cに対しては、個別指導タイプで、特に目をつけて、気をつけて指導する。

② 反応類型学習



調べる意欲を基盤に、調べ問題を作る。そして、一次反応を生かして、学習問題を作る。さらに、一次反応を基にした、二次反応がおりてくる。一つの授業の中に個別化と個性化が同居している。さらに、分り切っていない子に対する情報と、分り切っている子に対する情報を提供することが大切。

③ 課題選択学習



課題選択学習の二つのタイプ
 ① 窓口が違った、課題が違うけれども、結論が同じよの課題選択学習
 ② 課題から結論までが全部違う課題選択学習

以上、「新しい学力観に立つ社会科学習」ということで、教育課程の編成から授業の類型について述べてきたが、私たちはこれから、子どもの「問い」の多様性を生かすつつ、「論証」するまでの過程をとらえ、基礎・基本的内容を自ら学びとる学習を究明していきたい。
 各郡市が総力を結集して、四国大会を迎えたい。



1月定例会(綾歌)の研究内容

- 1 日時 2月1日(土) 14:00~16:30
- 2 場所 飯山南小学校
- 3 研究授業
 - 単元名 6年「日本と関係の深い国と人々の生活―韓国―」
 - 授業者 丹後 靖史(飯山南小)
 - 提案者 徳永 桂子(飯山南小)
 - 指導者 竹下 和男先生
- 4 提案内容

テーマ 「基礎・基本を明らかにし、子供たちが意欲をもって取り組む社会科学習」
- 5 討議、指導内容
 - ・ ゲストに質問したり、話を聞いたりする中で、外国の人との望ましい対応の仕方は体験できていた。そして、キムチ・チョゴリなどについての知識を知ることができていたが、つながりについては理解が不十分だったのでないか。
 - ・ キムチやチョゴリについての学習から何が見えてくるのかと考える。それは、違いを認めるといふ考え方ではないか。その考え方が、異文化の理解ということであろう。
 - ・ 日本で言う正座と韓国の正座とは違っている。しかし、それを認めるということが国際性ではないか。そのことを、韓国人(ゲスト)の話により、学べたことが収穫であった。
 - ・ 韓国の文化を知ることを通して、日本の文化の良さを見つめなおし、自国の良さを再認識することが大切なことではないか。

2月定例会(仲善)の研究内容

- 1 日時 2月15日(土) 14:00~16:30
- 2 場所 善通寺東部小学校
- 3 研究授業
 - 単元名 6年「日本と関係の深い国と人々の生活」
 - 授業者 高橋 義徳(善通寺東部小)
 - 提案者 橋塚 智教(琴南東小)
 - 指導者 大西 孝典先生
- 4 提案内容

テーマ 「新学習指導要領の趣旨をふまえ、基礎・基本の定着をめざす社会科学習」
- 5 討議、指導内容
 - ・ オーストラリアと日本の共通点(人の努力・工夫)という内容をとらえさせようとしていることはいいが、もっと違いについての認識も必要ではないか。
 - ・ 「教師の提示した資料から、問題をつかむ」という教材反応学習のタイプの授業であった。このタイプの長所と短所を考えた指導が、これから大切である。
 - ・ このタイプの授業の欠点は、問いが狭いということであり、子供の多様な問いが生かされにくい。年間計画の中でいろいろなタイプの学習を保障していく、カリキュラムの研究が必要であろう。
 - ・ 国際性という内容が柱であるが、この内容は3年生段階から積み上げられるものであり、系統の研究が重要である。

これからの研究計画及び事業計画

2 / 23	<p>社会科の基礎・テスト編集会 第1回 (平成4年度, 2学期用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容検討, 役割分担 <p>研究委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演「新しい学力観に立つ社会科学学習」 大川からの四国大会に向けての提案 研究図書の執筆, 分担
3 / 21	<p>社会科の基礎・テスト編集会 第2回 (平成4年度, 2学期用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原稿の検討
3 /	香社研40年史の編集 1
4 / 29	香社研総会, 理事会, 歓送迎会
6 /	香社研40年史の編集 2
7 / 30	夏季研修会
31	”
8 /	香社研40年史の編集会 3
8 /	社会科の基礎・テスト編集会 第1回 (平成4年度, 3学期用)
9 /	社会科の基礎・テスト編集会 第2回 (平成4年度, 3学期用)
11 / 12	
13	四国大会

編集後記 メモランダム

今年度の研究の方向を探るということと、「香社研だより」を発刊しました。

これも、多忙な中、執筆していただいた先生方の御協力によるものと感謝しております。

今年度は、秋の四国大会という大きな大会がありますが、その大会を目標として各郡市の総力をあげてがんばってほしいと思います。

四国大会の研究主題(案)ものせていますので、各郡市でも検討していただいて、四国大会までの研究の参考にして下さい。

(係 旅田敏弘・宇山知昌)



発刊に当たって

香川県小学校教育研究会社会部会

香川県社会科教育研究会

会長 亀井達男

全国各地から、日頃社会科教育に熱心に取り組んでおられる、多くの先生方をお迎えして第29回香川大会を平成4年11月13日に大内町立三本松小学校で開催いたしました。

香川県社会科教育研究会では、これまで社会の変化と児童の成長過程の変化に対応出来る新しい学力観に立つ教育を求めてまいりました。新しい学力観に立つ教育、それは生涯にわたって学び続けていく力としての学力を育てる教育であります。まず一人一人の児童が、基礎・基本の事項をきちんと学んでいく学習、そして学び方を学んでいく学習をどう深めるかという個別化の学習をあげることができます。また他方では、一人一人の児童の個性や特性をいかに伸ばしていくかという個性化の学習をあげることができます。私たちは現代教育の課題である「指導の個別化」と「学習の個性化」を進めるために、生活科・社会科・総合学習の中で、「問いと論証の調べ学習」を展開し研究を積み上げてまいりました。

遠くは青森・熊本から同じ道を究める学友が三本松小学校につどい研究討議を戴きました。人の数500余名・天の恵…快晴の一日。地の恵…子どもたちの力強い歩み、響く声。人の恵…時を超え目を輝かせ全力を尽くす集団。ささやかではありますが実りある大会でありました。二年間にわたって研究に取り組んでくださいました三本松小学校の先生方、またご多用にもかかわらず終始ご指導くださいました寺田 登・北 俊夫・高野尚好・池内 博四人の先生に改めて厚くお礼申し上げます。

また、県・市教育委員会の先生・郡市の会長さん・先生方には大変お世話になりました。香小研には開催日等お世話になりました。心からお礼申し上げます。

まことにささやかな研究成果ですから十分なご批正とご教示をお願いするとともに、香川県社会科教育推進のため更なるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

1 学年 分科会 討 議 記 録

1. 授業者の反省

熊田先生

- ・家族の特徴の違いに気づかせたかったが、欠損家庭の子どもには特別に配慮した。
- ・自己中心性の強い発達段階の子どもなので、友達の良いところに気づかせることは難しい。
- ・家族が自分たちのことを温かく見守ってくれていることを意識させるのは難しい。

多田先生

- ・仕事をしての問題点をあげ、解決策を見つけるためにすぐに活動に入るほうが良かった。
- ・保護者に来てもらうのは今回が初めてだったが、子どもたちの活動をできるだけ手を出さずに見守り、つまずいても子どもたちに考えさせるよう頼んだところ、うまく助言してくれた。
- ・最後の活動で仕事の工夫を見つけてワークシートに書いた後、家の人に知らせる手紙をもう一度書かせたが、繰り返しの活動になるので、最初から家の人に知らせる形にして工夫を書くほうが良かったのではないか。

2. 代表質問

松山市立石井東小学校 新家益一先生

感想：本時は子どもたちの自由な活動が保証されていた良い授業だった。

質問：①低学年の指導は、個々の生活経験の差が大きく難しいといわれるが、この点を本校ではどのようにとらえ、どう指導に生かしてきたか。

②社会認識を育てるために、体験活動、表現活動を組み入れているようだが、具体的な取り組みの成果は。

③子どもたちの自己評価に教師がどのような関わり方をしているのか。

④個性化・個別化をはかるために授業を3タイプに分けているが、反応類型学習とはどのような視点で子どもたちの反応を類型化しているのか。

三本松小熊田先生

回答：① 本校1年生では、特に技能面、行動面での個人差が目立つ。全員が集団活動に取り組めることを目指している。そのために、わがままな子も気分よく活動できるよう配慮している。徐々に集団としての生活に慣れるように、様々な経験を通してほめたり、叱ったりしている。

生活科では、子どもたち一人一人に応じた援助を行わねばならない。

② 本校では、体験・表現活動を重視し、体験のたびに表現活動を取り入れている。例えば、4月、5月の探検活動では、探検の後すぐに「みつけたよカード」に記入させて、そのカードをもとにわかったことを相談させたり、探検地図に貼って第三者に知らせる活動へと結びつけてきた。

③ 子どもたちの書いた自己評価カードに教師が言葉を書き入れ、それを単元の計画

書につけ加え、計画を修正して次の活動に移るようにしてきた。

白鳥町立本町小学校 吉鷹由美子先生

回答：④ 反応類型については研究要綱を見ていただきたい。

課題別分科会

生活科部会 1年

テーマ 「社会認識を育てる生活科学習のあり方」

1. 鳴門市立大津西小学校教頭 秋山敬子先生

生活科と社会科のちがいは何か。従来の社会、理科という教科では低学年の子どもが理解するということが難しい。低学年の子どもが将来しっかり自立できる子になれるよう育てていこう、とするものが生活科である。将来を生きるにあたり、子どもたちの身の上には様々な問題がふりかかってくると思われるが、それらの事がらに十分対応しうるよう育てていくのである。

本日の提案授業をふり返ってみると、熊田先生の授業では、子どもの書く力のすばらしさに驚かされた。書く量も多いが内容も、自分の思いをしっかりと書けている。発表の仕方も上手である。

今日の指導の流れは、子どもが単に遊ぶというものではなく、子どもそれぞれが問題意識をもって見通しをもって実行し、そして交流しあい、自分の体験を広げ深めていく。その上で自己反省する、という手順をとっていた。

多田先生の授業では、子どもの能力相応のものをとりあげていたのがよかった。またボランティアという点でもよくできていた。生活科では地域の教育力を活性化させていかなければならない。保護者、地域に学校の中へ入ってもらうことが必要である。そういった意味では、学校と地域の垣根をとりのぞこうとする姿勢が見られ、すばらしいと思う。

生活科の問題点の一つとして、低学年の子どもが1時間を集中して学習に取り組めない、ということである。子どもが1時間を喜んで活動できるようにするにはどうしたらよいか。子どもはみんな活動したいので、同じように聞くだけ書くだけの活動になってしまうとあきってしまう。そこでたとえば一つの教室の中に、コーナーをいくつか設け、交替しながら発表したり聞いたりする、という形態にしてはどうか。このようにして、1時間の中で活動や体験を中心とした構成がよいのではないだろうか。

また書く活動はやはり大切なので、活動中の子どもの様子とともに、評価の材料の一つとして必要である。

学年の能力に応じたものをとりあげることも楽しく集中して学習するための大切なことがらであろう。

社会認識、自然認識、自己認識はそれぞれ独立したものではなく、生活科の中でそれら一体の

芽を育てていくのである。そして生活科で育った子どもを今後、社会科、理科の分野でどのように伸ばしていくかが今後の課題であると思う。

2. 香川県教育委員会義務教育課主任指導主事 林 靖子先生

生活科でもっとも大切なことは、生活科を1, 2年で終わらせない。3年生以上につないでいくということである。そして子ども中心に学習を進めていく、つまり子ども自らが学んでいけるようにしていく、ということである。

社会認識の芽、自然認識の芽をきちんと示すことが大切である。社会認識の芽の気づきとは、教師が教えるものではなく、子ども自信が見つけていくものである。

本日の提案授業をふり返ってみると、家族の役割を考えていく上で、まず家族の人に目をつけて、そして仕事に目を向け、道具に目を広げて、そして家庭内での家族の役割に気づいていく、という流れであったと思う。こうした流れの中で、「お父さんって大変だなあ」「こういう家族の中で、自分は何をすればいいのかなあ」という思いをふくらませていくのである。それが実践化、社会化であり、自立への一歩である。子どもたちの中に、どうすれば社会の中において役に立ていけるか、という思いを育てていきたいと思う。

代表質問の中に調べ問題と学習問題はどちらがうのか、というものがあったが、調べ問題というのは子ども一人一人がそれぞれもつ疑問に対して、調べたいことがらであるから、たくさんある。それらを互いに交流しあう中から、見通しを含んだ問いがうまれてくる。それが学習問題であると考えられる。

分科会別 討 議 記 録

(生活科 2年)

1. 授業の反省

(矢木泉子)

たのしい授業を目ざした。子どもは、緊張していた。あわただしい授業になって、ガイドさんの袋を出すのも忘れてしまった。昨年より、三本松小と丹生小の子どもが手紙のやりとりをしていた。子どもたちの半数は、バスに乗ったことがなく路線バスに乗ってみたい様子だったが、子どもだけで乗るので少し不安な様子だった。

授業の流れは、1. 運転手の仕事を聞く。

2. 丹生小に行って発表する。

3. 学習を振り返る。

4. バスごっこをする(失敗の経験をふまえてした)となる。

本時は、車掌さんの仕事を中心にした。

(板倉ちとせ)

丹生小の子どもが招待してくれた。グループごとに見学させた。地図を確認させながら行った。グループごとに紙芝居や絵話、劇化などに分かれ表現させた。見る人が分かるようにするのは難しい。自己評価としては、「びっくりしたよ」カードなどに書かせている。3の活動(グループごとに小さな旅の発表を改善する)の時間を十分確保したかった。今後は、学んだことを全校生に見てもらおう予定である。

2. 提案発表

(前田絹代) 発表要項 P26参照 「社会認識の内容と方法の系列」について

(安部静代) 別紙プリント参照 具体的な指導のあり方、評価について

3年生になって地図学習がしやすい。

空間……マップ, 時間……こよみ

3. 実践交流

(池田茂樹) 発表要項 P90, 91 } 別紙プリント参照

(赤山ひとみ) " P92, 93

4. 代表質問(徳島県, 島村真里子)

① 反応類型学習についての仕方

② 感動があったかどうか。

③ 教師の援助の仕方。

④ 評価カードはよかった。

○ 運転手さんの仕事はたくさんある。大変だ。

○ 援助としては、信号の青を出した。ヒントカードは使わなかった。子どもと共に話し合う。

5. 意見

(中石藤江さん…香川県, 部外者)

教室環境作りは、大変であったと思う。生活科では、安全面の指導や仲間分けの指導はよくできているが、感謝の気持ちは育てるのか。子どもが全員席に着いてから発問するのがよい。

(矢木泉子)

見学後、お礼の手紙は出している。

6. 指導助言

(加藤孝雄…高知県) ……板倉先生の授業を見てから

- 授業時間が1時間かかった。
- 環境が整えられていた。
- 3つの場面分けはよかった。…適切な先生のかかわりがあった。
- 内容分析にこだわる。学び方や方法を知らず。
- 評価規準を設定している。これは一人一人の子どもを伸ばすことになり、通知票の参考になる。

(渡邊久仁子…香川県) ……矢木先生の授業を見てから

- 社会認識の系列から見た生活科
 - ① 単元構成…意識の連続性がある。
 - ② 活動や体験を通して(表現活動)生活の知恵を身に付ける。そして自分の活動を振り返る。表現のポイントを示す。バスごっこをなぜするのか。
 - ③ 子どもの願いと教師の願いが合った授業をみざすのがよい。事前の準備や実態を知る。子どものつぶやきから援助点を見つけてその力をつける。

2年 分科会 討議記録

記録者 出辺 裕一郎

- 指導者, 授業者, 提案者, 実践交流者, 記録者, 部会責任者, 司会者の紹介
- 会の進め方説明
 - (1) 授業者反省
 - (2) 郡提案
 - (3) 実践交流
 - (4) 代表質問
 - (5) ご指導
- (1) 三本松小 矢木泉子教諭
 - ・楽しい地域学習をめざしている。

- ・教師，児童ともやや緊張気味。そのため，昔の車掌の資料（小豆島路線バスの写真・古いカバン）が十分活用できなかった。
- ・前単元では「手紙の旅」を追いかけ，本単元で丹生小への旅を学習。
- ・半分ぐらいの児童は路線バスに乗ったことがない。乗ったことがあるという児童もそのほとんどは親といっしょなので，自分で乗るのは不安という児童が多い。
- ・単元の流れ説明。本時のグループ発表については，児童が劇，紙芝居などを選び，グループ内で役割分担した。
- ・バスごっこの時には，運転手さんの仕事を考え自分達はどうすればよいかを考えさせたかったが，自分の旅をふりかえっての内容のものが多かった。

三本松小 板倉ちとせ教諭

- ・指導案通り進まなかった。
- ・単元の流れ，前時までの活動内容の説明。
- ・劇の発表になるとどう動いていいのかわからず，せっかく作った道具などがいかせていない。
- ・自己評価カード（びっくりしたよ。困ったよ。おもしろかったよカード等）を前単元から取り入れている。
- ・駅で働く人の立場にはたっているが，それに対して自分はどうすればよいかにまで考えが及んでいない者もいる。

(2) 神崎小 前田絹代教諭

- ・研究主題 分科会テーマについて
- 誉水小 安部静代教諭
- ・社会認識の内容の系列と方法の系列について
(紀要26 P. 補助資料参照)

(3) 新塩屋小 池田茂樹教諭

- ・お祭りごっこの活動を通して社会認識の芽を積み上げる生活科学習
(紀要90 P. 補助資料参照)
- 誉水小 赤山ひとみ教諭
- ・グループ活動を中心に，生活科の学習を楽しみながら社会への認識を深める。
(紀要92 P. 補助資料参照)スライド利用)

(4) 徳島県鴨島町立飯尾敷地小学校 島村真里子教諭

- ・指導案に反応類型学習とあるが本時の中でどうなっているか。
- ・活動が中心という主張には賛成だが，本時の授業ではどの程度感動的な活動であったか。
- ・教師の援助についてどう考えているか。本時はやや指導色が強かったのではないか。

解答 三本松小 矢木，板倉教諭

- ・紀要11 Pにある図は社会科におけるものであり，生活科ではそのままとはいかない。
- ・バスのことを知りたい(疑問)→調べ。まとめ→新たな疑問
運転手さんのたくさんの仕事を調べ，運転手さんを助けるために自分はどうすればよいか考え

たことがバスごっこに表われる→反応類系学習

- ・前時までの丹生小への旅の中で駅員さんなどに教えてもらっていたことが多く、新たな感動は少なかった。
- ・援助面でヒントカードも考えたが、児童の話し合いの中から出させたかった。
中石テルエ様（教師以外）
- ・すばらしい教室環境
- ・マナー面、感謝の気持ちといった道徳的なことも指導するのか。

解答

- ・道徳的な指導を生活科ではとても大切にしている。
感謝の気持ちとしてお礼の手紙を送っている。

(5) 高知県高知市立布師田小学校 加藤孝雄教頭先生

- ・正味一時間の授業であったが子どもが飽きていないのは、魅力的な活動があったからである。
- ・すばらしい教室環境
- ・それぞれのグループのごっこ遊びに教師の適切な援助がなされていた。
- ・指導と援助の関連、本時はやや指導色が濃くなるのも無理ない。
- ・地域によりいろいろな生活科がある。内容系列の分析にこだわりすぎると社会科に近づきすぎるので、学び方や方法の分析に力を入れるとよい。
- ・多様な自己評価の方法を取り入れており、一人一人の子どもをきちんと評価しようという態度が見られる。

香川県辻小学校 渡邊久仁子教頭先生

- ・楽しいだけの生活科ではダメ。
- ・単元構成の中に子どもの願いや思いをどう取り入れていけるかがポイント。三本松小の取り組み（町探検→手紙の旅→乗り物を使った旅）のように、子どもの意識の連続性がみられる単元構成を考えたい。
- ・生活科では、活動や体験をもとに自分の生活をどう作りあげていけるかを考えることが大切。
- ・子どもが書いた自己評価のカードではなカードやびっくりカードが多かったのは感動が大きかったことを表している。
- ・表現活動では友だちとの関わりの中で新しい気づきが出てくる。また、表現活動でのポイントは、何のためにするのかといっためあてを最初にしっかり自覚させておくことが必要である。
- ・生活科では、子どもに寄りそい、教師や子どもの願いをふまえた授業を行うことが大切である。
- ・指導案と実際の授業がずれてくることの原因は、①子ども主体の授業であった。②事前の実態把握が不十分であった。の二つが考えられる。いずれにせよ、事後の検討が必要である。
- ・事前の準備や援助点については、児童の実態（表現物、つぶやき等）をつかんだうえで考えていかねばならない。

3年 分科会 討 議 記 録

【実践交流及び提案】 (要項P. 94～97及びP. 38参照)

【授業者より】

- 山下教諭
- ・ 便利さ、楽しさという観点で類別思考を取り入れたが、どちらへも重なる考えがあった。観点が良かったかどうかが問題だ。
 - ・ どういう理由でというところが不十分だった。
- 濱松教諭
- ・ 自分の考えを足跡として残すために、パンフレットづくりなどの表現活動を取り入れている。カードも自分の力で書かせている。
 - ・ 本時は、グループ間の交流がうまくできなかった。

【研究討議】

- 香・川岡小
- 白川教諭
- 香・三本松小
- 山下教諭
- 香・岡田小
- 野村教諭
- 愛・松山小
- 上甲教諭
- 山下教諭
- 高・高大附属小
- 茂松教諭
- 香・津田小
- 栗島教諭
- 茂松教諭
- 栗島教諭
- Q. 児童一人一人のさまざまな問いをどのようにまとめて、学習問題に持っていたのか？
- A. 子どもたちの興味、関心のある問いを大切にした。
- A. 子どもたちの持ったさまざまな問いを大切にすることが本大会の一つのねらいである。3年生の段階では、カード操作を通して子どもたちが絞り込んでいく。さらに、資料を見て問いを価値あるものにしていく時間を設定しているということがあげられる。また、それらの問いを学習として成立させていくために観察や見学を繰り返していくことが大切であるという提案だと思う。
- ・ 生活科と社会科のつながりを考えて、体験活動をたくさん取り入れていることに感心した。
- Q. 論証の時も子どもの意識の流れが大切だが、とぎれてしまうことがよくある。今日の授業で、便利さと楽しさという意識をどの段階まで継続して持たせたかったのか？
- A. 教師の意図としては、最後まで持たせたかった。子どもの中には、逆の観点到に目がいった子もいた。そんな子の考えをもっと認めてやれば良かった。
- ・ 3年生が初めて作った南新町商店街のパンフレットがすばらしい。子どもの願いがいっぱい詰まっているパンフレットである。
- Q. 何のために今回の活動を仕組んだのか？
- A. 立体模型とパンフレットは質が違うのではないか。立体模型は、過程での意欲化を図るもの。パンフレットは、仕上がっていくことが意欲化につながる。
- Q. 子どもが、思考を深めていくために特に留意した点は何か？
- A. 思考が深まるのは、一人でじっくり考えているときと友達と交流したときであ

- る。3年生は後者が中心である。同じレベルの子か少しレベルの高い子と交流することで深まっていくと思う。
- 野村教諭 A. 思考を深めるための方法としてカード操作もある。一人一人がカードに考えを書き、まとめていくことで類別思考を図る。さらにまとめていくところに子どもたちなりの創造的な考えが入って来るのではないか。そのような経験を積むことによって創造的な思考力を身につけさせたい、ということが本単元の提案である。
- 茂松教諭 Q. 今度同じ授業をするならどこをどう改造するか？
- 山下教諭 A. 自分の考えをしっかりと持っていないと交流しても深まらない。個々の考えをしっかりと持たせ、その考えを生かしていきたい。
- 濱松教諭 A. グループ内での話し合いの段階を省略したので、グループ自体が自分たちの調べたことはこんなことだったという特徴が分かっていた。そのため、全体を通しての気づきがなかったように思う。
- 茂松教諭 ・ 活動意欲が追求意欲に変わってくるところで、子ども同士のかかわりや教師の働きかけがある。この時に、あまり早急に観点類別を入れていくと、むしろ子どもの意欲を早く狭めすぎるということになって、子どもがお客さんになってしまう危険性がある。類別や観点を絞るのをどこで位置づければよいか難しいと感じた。

【ご指導】

香・附属坂出小
大西副校長

- ・ 社会科学習というものは自分の目、手、足など体で体験を積み重ねていく中から新しい発見、興味関心、驚きが生まれて来る。そこで、いろいろな体験活動を豊富にさせてやるのが社会科を好きにするだろうし、授業もうまくいくのではないと思う。
- ・ 3年生は、調べに行くといろいろなことを調べてきて煩雑になる。このような場合、子どもたちの調べてきたことをどのように学習の素材に生かしていくかが教師の教材研究と深く結び付いてくるところだろう。だから、3年生の授業が一番煩雑であっておもしろいということを今日の授業で見せて頂いた。
- ・ 目的のはっきりした体験を組むことや、子どもの意識の流れに沿った授業が展開されていくことが大切である。両方の授業とも子どもの体験をくぐった授業である。そして、自らの手による資料の積み重ねの中で社会認識を培っていくという授業だった。
- ・ 子ども一人一人が調べたことや一人一人が持った考えをカードの書かせてある観点で分類したり仲間分けをすることで、考える力をねったり培う授業が展開された。考える場をきちんと作って論証していく力を提案された授業である。
- ・ 今回香川県は、新しい学力観に立つ社会科学習で「問いと論証」ということ

で、どのようなところで、どういう子どもができていけばそういう力がついているかを提案させて頂いた。

- 社会的な環境だけでなく国際理解教育の面でも整備が行き届いている。
- 大奥実践で一番印象に残ったことは、その場に行ってみないと分からないことがある。その姿勢作りで心を打たれた。生活科との絡みで「具体的な活動、体験を通して」ということは、今日の授業にも提案にも生きていると思う。自分とのかかわりが実際の授業の中でどう生きていくのかが今後の課題である。
- 佐々木実践の素晴らしいところは、第1に、ストーリーのある単元構成をしているのである。子どもが自分で追求していったストーリーをお話にしていく。最終的に自分の追求物語が書ける、ということを実際にされていることが素晴らしい。第2に、自分の学習だけに終わらないで、校内や地域へ返すという手だてが考えられていることである。さらに、自己評価がすばらしい。目標分析がきちんとされている。
- 本校の子は、情報をいっぱい持っている。実際に行つて自分のものになっているのでわくわくしている。ただそれをどう出してどうからめていくかがこれからの課題である。
- 山下授業だが、交わりの部分を絡めたようなやり方を考えても良かったのではないか。また、発表しながら自分で整理していく場面を作り、その時に利便さ、楽しさを一人一人がおいていけばよい。「分類」が非常に大事な力だからこれをいかに教師が効率的に仕組んでいくか、子どもの意識を大事にしながらよりよい手だてを支援していく必要がある。しかし、とても楽しい授業であった。
- 濱松授業だが、「品ぞろえ」も難しい。これを3つの色分けしたカードにまとめていったのは非常にいいアイデアだったと思う。また、自分の集めた情報を子どもたちが整理していたわけだが、だぶりがかなりあった。これも情報処理に関して教師が考えて行かなければならない面があろう。
- 一人一人の問題意識（問い）をどう分類しまとめればよいかという質問が出たが、まとめなかった例をやったことがある。5年生の「伝統的工業」で120種類の学習問題が出てきた。子どもが持った学習問題は全部その子に自分で追求させていく。その間で友達とのかかわり合いの場がある。そのために、追求状況表がはられ、だれがどんな追求をしているかが分かる手だてを工夫した。だから、ワンパターンでなく学年に応じて、教材に応じて、教師のねらいに応じていろいろなやり方でやっていけばよいだろう。
- 授業で一つだけ気になったことは、だれのための改善なのかがはっきりしていなかったことである。子どものための改善なのか、商店街の人のための改善なのかが大事なポイントである。

- 目標分析は、学習指導案の中にもあっていいのではないか。単元目標や本時の目標の中にも目標が分析された内容がのっていいのではないか。
- 愛媛県では、「学習指導案」を「学習支援案」としているところもある。

5年 分科会 討 議 記 録

分科会テーマ

情報化・国際化社会に対応する認識を深める学習のあり方

森林の働きを仕組み図で表現し、森林保全について「緑サミット」を開こう。

1. 授業者より

- 男子16名、女子17名のクラス。1名の空席はイタリアからの女子。一時帰国中。
大変活発なクラスであるが、今日は委縮していた。
- 仕組の再認識はよくできた。
- カード操作や調べ学習は、教師自身が初めてでとまどった。カードについての意見を述べあう時間はないので、今日は班の代表者にまかせた。

これまでの学習の流れ

① 資料集め

1学期から新聞記事の収集をし多い子は50枚以上になっている。感想をまとめて書かすようにした。日直になれば、自分の考えを交えて、新聞記事の発表をさせている。

② ビデオ視聴

杉山崩壊、酸性雨、ノグチゲラ、シベリア凍土の崩壊

③ 教科書の利用

国語「森林からのおくり物」、社会の教科書

④ 役場の利用

地域の実態を知るために資料収集

⑤ 体験学習としての大内ダムの見学

⑥ 緑のアンケートを行い、導入時での意欲づけを図る。

○ゴミやえんぴつの落とし物が減り、資源を大切にしようとする児童の意識が高まり、そのような言動が増えてきている。

2. 郡提案

丹生小 村上勝先生

— 分科会テーマについて —

情報化・国際化社会に対応する取り組みは、新しい学習指導要領の柱の一つである。新しい視点で教材開発を行い、国際的・人類的な視野で物事を考えることのできる能力を持つ児童を育てる必要がある。資源や環境は人類共有の財産であるということをもとに、思考し、判断し、生きていこうとする児童を育てるのである。本校では、単に社会科だけで国際理解を図ろうというのではなく、ワールドルームを作ったり、国際交流事業を毎年実施している。

引田小 向山智恵子先生 — 「問い」と「論証」の調べ学習を展開していく中でどのように国際化・情報化に対応していく力をつければよいか —

- ① 単元導入で社会事象に働きかける。そのことにより、「問い」が生まれ、意欲がわき、情報収集の力も育つ、社会事象は身近な素材を利用する方がよい。
- ② 表現活動をすることにより価値のある情報にする。
- ③ 国際理解的な視点を育てる。地域を窓口に、世界をみつめて、多面的な見方、考え方を育てる。自分が環境にどうかかわっていくかが大切である。

3. 実践交流

— 聞き取り調査や見学・表現活動を通して新聞の果たす役割・影響を学び、情報処理能力を高める — 丸・郡家小 藤六 健先生

実践単元「私たちの暮らしと新聞」

- 新聞の持つ社会的な意味を考えさせる。情報の送り手として、情報の受け手として、
- 知識理解面の基本的事項を明らかにする。
- 学習方法は、自分達で情報処理し表現して、他のグループと交流（比較・総合）する。
- 知らないことへの知的欲求を全面に押し出し関心を引き出す。意欲を継続するために、実物にふれる・見学する・体験するという活動を計画的に盛り込む。自己評価をする。
- 実践を通して児童は、情報を受け取るという立場だけだったものが、情報を生活に生かしていこうという態度に変わってきた。ただ新聞は、難しい言葉や漢字のために、児童には取っつきにくい一面が残った。成長するに従って、情報を有効に活用していこうという意欲は、身についた。

— 表現活動・意欲的な調べを通して、国際協調の態度を育てる —

坂・中央小 大西浩史先生

1. テーマについて 国際交流の進展、国際的相互依存関係の進化に伴って日本の教育も国際化の視点をぬきにして考えられない。今日の日本で求められているものは「人」の国際化である。
2. 実践「世界と結びつく日本人の生活」

日米貿易摩擦の解決策を考える中で、相手国のことを考えた記述が多く見られた。

5年 分科会 討 議 記 録

実践交流2 坂出・中央小・大西

- 5年の自動車の貿易まさつの学習では、アメリカの工場の人が、日本製の自動車をこわしているところから考えさせると、ねらいにかなり迫ることができた。
- 6年の世界との貿易についても同じことを取り上げたが、反応が5年生とはちがった。
- まだ、何人かは、日本の立場からでしか考えられなかった。資料の中に、外国の人がもっとこ

- まったことが出ていればよかった。
- 立体模型をつくる表現活動で意欲化へ
 - 意欲・関心が評価の中心になってから、評価基準は必要となったが、評価後の助言・援助方法について研究が必要。

討議（司会 木・牟礼南小・柏）

司 はじめは県外者中心に、後半は、テーマを中心に情報交換という形でおねがいしたい。

今日の授業について意見おねがいます。

代表質・徳・藍住東小・青木

- 環境問題に対してのとりくみについて
- 開発か保護は大人社会でも問題
- 大内ダムという身近な素材からの追究
- 子どもは、開発は悪だというところに行きつくのではないだろうか。しかし、開発は悪いことも知らないといけない。
- 環境サミットで英国の少年から木を切らないでというメッセージがあった。
- 必要な木だけ切るというが必要な量とはどれくらい？ それがわかればリサイクルについてももっとわかってくるはず。
- 今日の学習では理科的知識がキーとなる。
- 「わたしたちは、今江戸時代の水を飲んでいる。」という自然化学的知識を理解させる手だては？

授業者

- だれが悪いかは考えさせないようにした。リゾート開発で木を切るのがいけないのなら、木を全く切らない場合は？と考えさせた。するとつくえなど木の製品がなくなるから困る。そこから木を切る必要もあるのが理解できる。
- 理科的なことについては、調べると大量な情報量になる。図書室で木について個人ごとに調べていった。

司 環境教育の実践をされた方は？

高松・円座小・井上

- 昔の人は自然のしくみをくずさずやっていた。必要な量だけ切ることからバランスをくずす量の伐採にまでなった。どうすれば、自然と人間は共存できるのだろうか。

高松・遠藤

- 大西実践より、自国理解から他国理解へ
- 環境問題について取り組んだ時、日本では、地域でさわぐが、外国では自分たちの生活を守るために取り組んでいる。外国の考え方と日本の考え方を比較すべき。

道徳的なものになりがちだが、社会科は道徳とはちがう。

高松・築地小・岡本

- 環境問題は人間がつくった問題だ。それを自分たちの手で見つけ、考え、判断することが大切。

自分はこれからどうしていきたいか考えさせるべき。まず、自分たちの身の回りに目を向け、他地域に広げていくべきだ。

- 国際理解の三本柱の1つにも環境がある。

指導Ⅰ 高知・第六小・奴田原

- 情報豊かで他国の事情はよく知っているが、その前に自国のことを知っているのだろうか。
- 公害学習の発展として環境学習がある。5年生では国際的視野に立って。自分の見方・考え方は、自分たちの生活の観点で考える。具体的な環境破壊の事実から科学的な目で考える。事実認識させ生命の尊さ・人間尊重の態度を育てる。人間として地域を守る態度を育てるべきである。
- 新しい学力観・問いと論証について

教師主導から個を生かし大切にすることで、意欲・学び方がついてきた。教材の深め方、選択が重要。時間があれば、予想した理由の根拠についてグループで討論し全体で深めることも。新聞づくりは一人一人が一枚ずつつくって論を班で話し合ってもよかったのでは。

指導Ⅱ 高松・川添小・岡田

- ジュネーブ国際教育の4つの勧告（環境・国際理解・異文化理解・人権）環境教育は公害学習型の告発型になってはいけない。
- メキシコシティは排ガスのひどさから車に乗る日を決めている。国際理解をする時、国際感覚を身につけるべき。人間（メキシコの人）がどういう動機でしているかまで逆のぼって教育することが肝心。今日の山崎先生はそれができた。
- これまで「…できる」ことに力を入れすぎているのでは。佐伯胖氏は「わかる」ことを重視した授業について提案している。「わかる」ための問題意識をもたせることが意欲化のエネルギーのもと。最初の意識から最後までどう高まったかを新聞にあらわすのである。
- 香社研の授業について説明します。今日のような授業が毎日あったら時間がかかりすぎてどうしようもないのではないかという意見があります。そこで3つのタイプに分けています。教師中心に資料を用意し基礎・基本の事項を大切にすすめる「教材反応型」。つぎに、反応を分けてその子なりに高めていく「反応類型型」。そして、自分で課題をもってすすめていき、教師は援助者の立場ですすめる「課題選択型」であります。
- とにかくいろいろなタイプに分けて、授業を広げていくことが大切なことではないでしょうか。

おわり。

司会 以上で討議終わります。おつかれさまでした。

提案授業 1

6年 分科会 討 議 記 録

- 司会者 本日の進行について
- 授業者 理論的なことは申せませんが、私の持っていることで国際理解の単元をどのように扱ったかを、お話ししたいと思います。我国の長い歴史の中で、外国との関係があるだろう。その歴史、交流をとおして発展がある。そこで、他国・自国を大切に（いとおしむ心）を養う、歴史+国際理解を学ばせたいと思います。中国以外の国も学ばせていこうと考えています。すべての国をしていて学ばせるのではなく、子が自ら選択して学べるようになってほしいと思っています。願いは、断片の知識を百習得するより追究したい人物の息づかい、生きた人間の心を感じるような授業でありたいと思っています。自ら取り組んだものは忘れることがない、又、自分の生き方を選択するとき指針となってくれるのではないかと考えます。新指導要領で「意欲」の問題が出ているが、課題選択→紙芝居を通して、自分の学んだことを他のグループや子どもに知らせたいと思うことで、表現力や意欲は育つと考えました。結んだり、つながったりして自分なりの中国観をねらいました。
- 提案者 (大会冊子 P 60 参照)
- (新開先生)
- (小北先生)
- 司会者 授業者の説明、提案者からの提案について質問等あれば、発言願います。…… (なし) では、続いて実践交流者の発表をしていただきます。
- 実践交流者 (大会冊子 P 106~P 109 参照)
- (大高先生)
- (大林先生)
- 司会者 歴史に国際理解がのっかるこの6年のテーマについて考えていってもらいたいと思います。まず代表質問者に口火をきっていただきます。
- 代表質問者 子どもを育てていこうとする授業者の熱心な取り組みに共感を覚えました。有難うございました。提案についても感銘を受けました。
- (高橋先生) この学習形態を続けていくと、考えの筋道がはっきりしていくと思います。2つ3つの事象をつなげていくことで、よりすばらくなるでしょう。これまでの授業について、単元の取り上げ方、構成の理由、授業の設定について、御説明願いたい。もうひとつ、やる気をおこす課題選択のための授業とは、国際理解の到達目標とは何かについておたずねしたい。意欲の継続のしかた（させかた?）について詳しくうかがいたい。単元構成の中で、どう押えるのか、支えとなるのは何か。以上、よろしく願います。

- 授業者よ
り説明
- ①部会のテーマと深く関わっていると思われませんが、自国理解、他国理解どちらも、その国の歴史の中にある明の部分の暗の部分を総合的に考えさせることが、愛情ある認識を持てる子どもに育てること なると思います。伝統文化に生きる命に愛情をかよわせることができるのではないかと考えます。
- ②私たちの国は、近隣の国々（他国）との関わりの中で文化を吸収していきながら発展してきたという文化を持っています。そのことを知ることが、国際理解単元の窓口と成りはしないでしょうか。思考のすじ道がたちやすいと思います。授業のふしめ子どもが力がついてきたら、発展学習の中で課題選択学習を入れるのでよいと思います。そこに子どもの喜びがあると思います。体験活動は時代が古いので難しいと思われま
- ③6月の香社研定例会において、実際に墨絵や生け花などを模擬体験をさせていただきました。子どもに何かを得させることができたと思います。そのことで、学んだことを友達に伝える力がついたように思います。その喜びを味わわせることが意欲につながると考えます。人物の事象の中へ、いかに自分を長く、深く通わせるかを大切にしてきました。
- 提案者の
説明
(小北先生)
- 歴史学習は点で学習しています。時代を教える上で大切な人物をとらえます。人物と人物にも、時代と時代にもつながりはほとんど見えません。今日の授業の構成は、その人物を中国という一本の長くしでつなぐ授業でした。中国というそれぞれの人物に関連のある国を押さえることで、中国という国がよりよくみえて来ますし、歴史はつながっているということ意識の中でもたせることができます。また、それこそが意欲につながると考えられます。調べる学習をすることで頭がよくなるということをお知らせ（自信をもたせる）ことが意欲だと考えます。
- 司会者
- どのように（歴史を）体験させていくかについて授業者は悩みを持たれているようですが、それについて何かございませんか。
- 質問者
(熊本県)
田中先生
- いくつか教えていただきたいと思います。
- ①P12に問いと学ぶ意欲というのがありますが、P12②の「生かされない」というのだが、その資料は感動のない、驚きのないものであったのかどうか。
- ②今日の授業で自己評価はどこでしょうか。どの場面がそれを促すことになったのか。
- ③交流をどうとらえているか。今日の授業では、「つけたし」が多かったが、それが交流と考えるおられるのか。
- ④教師の援助について、学習活動④はどこが学習問題か。指導案では学習問題を確認とあるが……。
- ⑤先生が、「総合」してみましようとおっしゃった際、子どもはすぐに反応した。学習訓練がいき届いていると思いましたが、子どもが総合ということばをどのように理解しているのかについて

- 授業者 ①中国との関わりをもう一度みつめるために、4人の人物、事象を出しました。子どもの選択した人物や事象に親近感を持たせる資料を提示しました。いろいろ学べそうだ。みえてくるぞ、といった意欲のもてるようなものです。例えば、雪舟の一生をかいたコンパクトな伝説など子どもにとって身近にあり親しみやすいものです。
- ②自己評価については、いろいろな出版社から出ている学者の自己評価について書かれたものをサンプルにしました。ことばの評価とともに、学習内容とくっつけて表現物としてみていくものを大切にしたいと考えています。
- ③表現物というのは、ワークシートに書き記した内容が自己評価ということです。個々のグループが発表する。→なるほどわかった。から、どのようなわかり方があるのかという提案者の一本の長いくしを築きあげるのが交流と考えています。
- ④「総合」のことばについては、香川の問いと論証の理論に基づいているので、一つ一つの用語をクラスにおろすときに考えています。学習問題については見る側のご意見をお聞かせ下さい。

質問者 (愛媛県) 清水先生
正しい国際理解とは、私は暮らしや考え方を理解させることだと思っているのですが、歴史の中からどのようにとらえようとされたのか。世界の中で生きる日本人として、現在の中国を学習することで国際理解の目が育つのではないかと思うがいかがか。

提案者 (小北先生)
本時のねらいとするところは、今の中国を認識していかないといけないのではないかとことです。歴史学習が終った段階で、中国をとりあげたことで国際理解につなげることを提案した授業です。

指導者 松山市 十亀先生
○新しい学力観から考えた時1～4がきちんと入っている。2が特にすばらしい。1教科にとらわれることなく、他教科との関連もはからなければならない。熊本の先生がおっしゃられた教師の資料についてだが、子どもが自分でみつけてきた資料に先生の資料を補足していくことがよいと思う。

○課題選択学習については

1. 子の自由にさせる単元構成
2. 単元が終わったら新聞にまとめる
3. 古くからのつながりという今日のような形式

といろいろあるが、年間指導計画と本単元を考えることが大切です。指導書P73を熟読していただきたい。もっとのびのびやれるためにT・Tなど指導体制の工夫をしてはどうか。

附小 上川副校長先生
○教師の教えこみからは脱皮したいと考えた。意欲を持って自ら学ぶことについては十年余の研究を積み重ねている。ということについては、御承知おきいただきたい。

○単元構成の新しさをねらっている。教科書通りではなく、クラスにあわせてということ考えて行ったことだと思う。ダイナミックな単元構成をみてほしい。

○資料提示に子どもが反応する学習でなく、その子に応じていくためには、復線型の学習が必要だと考えて、この単元構成を組んだ。ただグループ発表で終わらないで、結ん

で考えていくことが新しいといえる。

- 質問にあったように、取り上げた人物の中に対立や矛盾が少なかったことが、問題である。意見交換の中で、自分の論をかえるといったことが少なかったようである。グループ修正があれば、自己評価につながっていくことになると思う。
- 調べ方法・表現方法を発表で終らせたことが、自己評価、他者評価が難しかったということにつながった。
- 教師の子どもづくりの姿勢は大変すばらしかった。学ぶところが大きかったと思う。

総合学習分科会

- 司 会 総合学習は地域・伝統に迫るものとして取り上げられてきている。また体験も重視している。生活科からどうつなげていくか。など課題になっている。
- 指 導 者 本時は向山周慶にならって人の生き方を身につけていくことをねらった。課題設定・課題選択を本時の最初に行った。選択した課題にそって活動し、自己評価と向山に学んだことを書かせたかったが、時間がなかった。今、さとうづくりの博物館をつくっている段階です。
- (上村)
- (児嶋) 本時は2回目の脚本づくりの検討会。子どもたちに地域とどうかかわっていけばよいか考えさせたい。武士の勇ましさはよく表現できていたが、大内町の人々の想いを本時より表現させたかった。劇のグループに最初人数にばらつきがあったため、教師の方で調整した。このことが子どもの意欲化という点で問題となった。本時発表したグループはクラスの中で一番協力的。次時は、ペアグループや発表の場をもって交流させたい。時間が足りなく最後までいけなかった。
- 総合学習のあり方 —
- 提 案 者 要項 P66～P68
- (十河)
- (亀井)
- 実践交流 国際化の波が寄せている。学習指導要領でもそうである。本校では国際理解教育で日本・他国の文化・伝統を知る、相手を大切にする、積極的な行動力・人間尊重・生命尊重をねらいとしてそういう子を育てている。
- (高)
- 実践「くらしと水」「わたしたちのくらしとごみ」の中で身近な環境から世界をみ、連帯意識・国際協調を育成した。例えばあきかんりサイクル運動、牛乳パックからの再生を行い体験活動を組んだ。
- また「日本を紹介しよう、世界の人に」では自国理解・他国理解・コミュニケーションの育成をねらった。
- 成果は子どもたちの視野が広がったこと、世界を身近に感じることができるようになったことである。
- (金崎) 本校では人間学習とよんでいる。自然に学ぶを柱として植物栽培を通して社会・自己認識をつなぎ人間の生き方を考えている。
- ①体験重視、②表現重視、③全領域との関連で行われるべきことを主張したい。
- 3年へチマ、4年ジャがいも、5年トウモロコシ、6年キュウリで人間学習をすすめている。
- 人間学習は個性を生かせるので子どもはとても意欲的である。
- 選択の場や多様な表現を工夫することによって、個性を生かしている。

また、興味・関心に応じて調べさせたり、調べる方法も選択の場を設けている。

さらに、子どもたちが意欲をもって学習に取り組めるように他教科と関連をもたせて単元構成をしていくことが大切である。

子どもたちが運営できるような年間カリキュラムもまた大切である。

質 疑
鳴門教育
大附小
(稲井)

①今までの実践でこの子がどういう根拠で自己認識を深めたかわかる例を教えてほしい。

②4年の社会科の授業と本時の指導の関連はどうか。

③4年では向山の道具や工夫、6年では活動内容・方法が初めから板書することに疑問がある。総合学習には学び方を学ぶものではないのか。

④カードにかきこむ学習をしての成果はどうか。

(上村)

自己認識とは、自分のよさに気づくことである。さとうづくりを繰り返し失敗してその後、初めてできたとき自分のよさ、自己認識ができたと思う。

(高吉)

グループの友達のよさを見つけることにより、自分のよさを見つけることになる。

(上村)

社会科・理科・学裁で総合学習をしている。絵物語・年表づくりは社会科で行い、そこで学んだことを生かして学習するのが総合学習である。

(児嶋)

板書については、子どもたちの方で考えさせるべきで質問者の言う通りである。そういう力をつけたい。

日 新 小
(南原)

学習問題に対して絵カードに考えをかく。それを仲間分けし、見出しをつけていく。仲間分けによって比較・分類思考ができる。

どうしても仲間分けできないカードのときに教師の出番が必要である。このとき新しい視点を設定することになる。

自分のカードが全体場で操作されるので意欲化にもつながる。

愛媛大附
小
(三好)

総合学習を行う時空間の確保が大切である。

社会科の内容を精選して、重点的に学習するものを総合に取り扱う。また、他教科とも関連して行えることを総合学習で取り扱うべきである。

(金崎)

人間学習を軸にして時間は朝の常時活動30分、軽重をつけた社・理の時間、ゆとりの時間で確保している。

指 導 者
(高橋)

机の上で学習するだけでなく、学び方を教えていくことが必要である。そういう意味で総合学習は大切である。

個性を見つけるためにも、総合学習が適切である。自分の思いにそって活動しているので、随所に子どもの個性が見られる。

また、子どもが自分の思いにそって活動しているので、意欲化にもつながる。

時間の確保は、他教科との関連でつくり合わせていってほしい。

これらのことが学校の特色を生かすことにつながる。

実践交流

1. 子どもの学習状況を的確にとらえ援助していくことを基盤とした社会科指導

東京都多摩教育研究所 小池和男

新学習指導要領に基づく新しい教育を目指して、東京都内の各学校及び区市町村の各種の研究団体では、教育の改善を図ろうと研究テーマを掲げて実践研究する動向が見られる。

社会科教育においても、新しい学力観、評価観に基づく学習指導の改善と評価についての実践研究がなされているが、新教科生活科とのかかわりがクローズアップされ課題となっている。

これらの研究テーマを基に社会科教育の動向を探り集約してみた。

- (1) 体験的な活動を重視した社会科指導の在り方を探っている。
- (2) 表現力・思考力などの能力の育成を目指している。
- (3) 地域素材の教材化を通じた地域教材の活用を図っている。
- (4) 自ら学ぶ意欲や態度の形成を目指している。
- (5) 子どものよさや可能性を伸長する評価や援助の在り方を探っている。
- (6) チャレンジする心や豊かな感性を育てる社会科指導のあり方を探っている。

研究テーマは、以上6点の中から単一に扱っているものもあれば、複合して扱っているものもある。

社会科指導の在り方は、子どもたちから大いに学ぶものがある。また、子どものよさを的確にとらえていくことが特に大切である。例えば、今日の一年生の授業の中で、最初、寝そべっていた男の子が最後には、はりきって授業を終えていた。この子には、授業の中で「O君、最後まで研究しような」といったお母さんの声かけが効果をもたらしたようだ。この後O君は、ほうきのはき方、ちりとりをななめに使うと使いやすいということに気付いたのである。

また他にも例を挙げると、ある質問に対して「どういうふうにするの」と聞いた子に対して他の子が、「するどい」と反応を返していたのを見たことがある。子どもなりに判断し発言を評価しているのである。

商店街の工夫を見つける授業の中で、あるケーキ屋さんを調べた子が、家族の様子も含めた深い調べができていた。この子は、「ぼくもこの店へ買物に行こうと思う」と最後にまとめていた。このような気持ち、気付きが大切だと感じた。

授業の中で、子どもは、いろいろな気付きをしたり、つぶやいたりしている。その気付きやつぶやきのよさを見つける目を養うことが求められているのである。

2. 新しい問題解決学習をさぐる

伊丹市立摂陽小学校 黒田秀樹

子どもたちは著しく発展した情報化社会の渦の中で埋没しつつある。まず育てなければならない

力は、観察能力や情報活用能力である。社会問題についての事実や資料を自らの力で収集し、整理し、そこから自分が追求すべき問題を発見することができる力をつけていくことである。

次いで必要な力は、こうして発見した社会問題を論理的に究明していく道筋を自らの力で立てていく思考力を育てることである。

そして、これまでの研究によって学びとった問題解決の方法を実際に自己の社会生活の中で実践する行動力を育てることが大切になってくる。このことにより、主体的に社会生活に参加しながら自らの生活を創造的で有意義なものに作り上げようとする社会参加の態度が形成される。

社会科には、このような問題解決学習が適切であると考えているが、この学習をうまく生かしていくためには、教師自身も考え方を換え、自分の担任としての位置付けを大切にしなければならない。まず、何と言っても自分の生活を見つめることができる子どもを育てなければならない。そのために生活を綴ることを始めた。「聞きたがりの耳をもちましよう」と投げかけ会話を聞かせ、それを書くことで「」の使い方を教えることができた。また「やりたがりの目をもちましよう」と言ったり「ぶるぶる汗をかいて働いたことを絵に書こう」と言ったりして行動したことをどんとどんと書かせ、何事もやりたがる子どもの育成に励んだ。

学級活動の中からもやりたがりの子どもを作ることができる。係活動を見直してみると、教師の手助けとしかならない係が多くある。そのような係を除き、子どもたちが意欲的に取り組める係を新しく作った。例えば、スポーツ係ができ、その活動の時間を確保してほしいと教師に交渉してくるようになった。

このような、やりたがりの子どもが育つようなベースがあって、社会科という教科が学習できるのである。社会科で必要なのは、こだわりつづける、問いが続く子を求めていくことなのである。

3. 思考操作の深化を図る学習の組織化から

香川大学教育学部附属高松小学校 旅田敏弘

主張点 新しい学力の獲得は、「問い」と「論証」の過程における思考操作の活動にあり、思考操作の深化の条件として学習の組織化（問いと論証、思考操作・自己評価・援助）が必要である。

新しい学力の中核である思考力・表現力は学習過程にそって育てられ、獲得されていくものである。調べ学習の学力観は、内発的動機に支えられた「問い」をもつことからスタートする。社会事象についての調べ方法と表現方法との組み合わせにより思考力を育てつつ社会の見方・考え方を論理づけ、「論証」していくという学習である。「問い」と「論証」の過程を重視する調べ学習ではこの調べ方法と表現方法との組み合わせによる思考操作の学習を重視している。

そして、新しい学力観に基づく学習指導案として、学習活動の後半部にまでも子どもの反応を生かしつつ学習を組織化し従前よりも深く追求していくことができるように配慮している。

この学習の組織化には、問い・論証・思考操作・自己評価・援助の5つが条件として考えられる。この5つの条件がうまくつながって組織化が図られるのである。

6年単元「源頼朝の人物像を描こう」の実践を例に説明する。

- (1) 「源頼朝の人物像を描こう」というテーマで子どもたちは意欲的に調べ、自分なりの頼朝像を絵物語・マンガ・絵年表という表現物にあらわした。
- (2) しかし、いろいろな頼朝像があることから、本当の頼朝らしさとは何かという知的好奇心が高まり、本時の学習問題が設定された。
- (3) 頼朝らしさをはっきりさせるため、頼朝と義経のしたことのカードを比較する操作をしようという調べ方法がでてきた。
- (4) 朝廷に対する2人の考え方の違いに気付き、頼朝が朝廷とたたかったことがわかる。
- (5) 頼朝の武士の時代をつくりたいという願いを知り、そのこととつないで論証を深めた。

4. 水の値段に「問い」をもち、公共料金の意味を「論証」する学習を通して

香川大学教育学部附属坂出小学校 宇山 知昌

主張点 新しい学力観に立つ授業は、子ども自らが内発的に動機づけを行い、目標値を高めながら、基礎・基本の内容を獲得していく論証の過程を大切にしなければならない。

そのためには、思考を高める援助、目標値を定める援助、情報を補う援助を取り入れて単元を構想する必要がある。

新しい学力観に立ち、一人一人の子どもが自らのよさを発揮しながら主体的に基礎・基本の内容を獲得していくためには、単元を構想する際に教師はどのような工夫をしていけばよいのかということについて4年単元「くらしのなかで使われる水」の実践を通して述べる。

今までの学習では、得た知識が体系化されていないはがれおちていく知識であった。それを高学年にまでつないでいける知識とするためには、あたりまえだと考えない社会認識を持つことが大切である。

この単元では、市販されている名水と水道水を飲み比べてみることから始めた。すると「自分が使っている水道水も名水のようにできないかな」という問いが生まれ、浄水場や水道局の仕事について調べてきたことをもとに自分の考えがふくらんでいった。

次に、自分が考えた水道水をおいしくする方法が本当にできるか確かめるために水道局にはどれくらいのお金が入りしているのか調べた。水道局のお金の出入りを調べると子どもは1年間にたぐさんの赤字が出ているのに値上げをしない事実を発見する。そうすると「どうして赤字をだしているのに値上げをしないのかな」というように子どもの問いが高まっていった。

そして、水道料金が名水と同じくらいに値上げされたら自分のくらしはどうなるのか考えると、水道料金が名水と同じになったら1カ月に120万円にもなる。このことから「水道料金を値上げしないわけは市民みんなのくらしのことを考えたり、たくさんの人々に使ってもらいたいからだ」というように本単元の基礎・基本の内容を子ども自ら論証していくことができた。

「新しい学力観に立つ社会科学習」について

北 俊 夫 先生

今朝、三本松小に来て、手作りのしおりを配っていただいた。この時の子どもたちの笑顔一つをとっても、日頃から一人一人を大事にしながら、優しく思いやりのある子どもを育てている先生方の御指導の一端が感じられる。これらの日常の指導が基盤となって、今日の11学級においての生活科・社会科・総合学習の授業中に、生き生きとした、活発な、楽しい、子どもたちの様子を見ることができたのだと思っている。

社会科の授業に関しては様々な問題がある。例えば、子どもたちが社会科に対してどのようなイメージを持っているのか、ということで、一学期に各県の指導主事が集まって話し合ったことがある。その時、ある県の指導主事が「どんな時を子どもは、つまらないと思うか」ということについて話をした。それは、①ノートに先生が板書したことを写す時、②先生が長く話をする時、③外に出られない時、④習っていない難しい漢字がでてくる時、⑤自分の考えや思っていることが発表できない時、⑥「ふつうの社会科」をしている時に、子どもたちはつまらないと感じているというアンケート結果であった。それならば、「ふつうでない社会科」を教師は求められていることであろうが、このようなことを逆にとらえていけば、子どもが楽しいと感じる社会科に変わっていくのではないだろうか。いずれにせよ、社会科に対するイメージを問うこのアンケート結果は、厳しい問題として受けとめなければいけない。

ところで、本研究大会でもキーワードとして掲げている「新しい学力観」ということで、話をしてみたいと思うが、「新しい学力観に立つ教育」は、どういうものであろうか。それは、これまでの学校教育の反省に立つものである。これまでの学校教育は、大人（教師）が体系化した一定の知識や技能を効率的に子どもに身につけさせることを中心にしてきた。しかし、これからの予測することも難しい、変化の激しい社会で、主体的に創造的に生きていく人間を育てるためには、不十分である。従って、知識・技能よりもむしろ、子どもたちが意欲的に学ぶ態度や行動力を重視した教育の必要性が高まってきており、それが「新しい学力観」なのである。

では、日々の社会科の授業が具体的にどのように変わらなければならないのだろうか。その解答がまさに本日の研究発表であろう。本日の提案、そして行われた授業は社会科教育のこれからの方向を示すものである。また、理論と実践が一体化しているところに特徴があり、確かな理論に基づく実践、言いかえれば、実践に裏付けされた理論が、この研究の質の高さを示している。

それではここでもう一点「新しい学力観」に立った社会科になるための大きく4つの改善点について考えてみたい。4つの改善点とは、①様々な関わりを大事にする。②問題解決能力を育てる。③体験的な学習活動を組み入れる。④子どもの良さや可能性を伸ばす評価、である。この4点に具体的に迫ることによって、「新しい学力観」に立った授業が想像できるのではないかと思う。

まず、「①様々な関わりを大事にする社会科」ということで、4つの関わりを考えている。社会科における関わりは、まさに良さと同じである。つまり良さを生かす社会科教育と言いかえることもできる。次に社会科における4つの関わり（良さ）を挙げる。

(1) 子どもが学習の対象である社会的事象と主体的に関わる。子どもの生活との関わりで社会的事象を見つけさせる。 — (社会的事象の意味を考えさせ、その良さに気付くようにする。)

- (2) 子どもが、調べ方、まとめ方等の学習の仕方に関わる。つまり子どもが学習活動を決定していける。 — (社会科的な学び方の良さに気付かせる。)
- (3) 友達や教師との関わりを大事にする。学び合い、認め合い、励まし合いという意味の関わり。 — (友達や教師の良さに気付かせる。)
- (4) 地域社会との関わりを重視する。 — (地域社会の良さに気付かせることによって、地域社会の一員としての自覚と誇りを持たせる。)

これらのことは、子ども一人一人の良さを生かす教育というだけでなく、子どもたち自身が、教材の、友達・先生の・地域社会の良さに気付くということで、新しい学力観の中でもキーワードとなっている「良さを生かす教育」につながるものであろう。

それでは、最後に「④子どもの良さを伸ばす評価」ということに触れたいと思う。評価については、研究会等で必ず話題になることで、「新しい学力観」になると同時に、評価も新しくならざるを得ないということを表している。

まず、評価の目的であるが、通信簿のために評価する、という「評価のための評価」にはならないようにということは、これまでも言われてきた。つまり、授業改善に役立てる、指導に生かせる評価でなければいけないということである。しかし、それも教師のための評価になっていなかったのだろうか。これからはさらに、子どものための評価をしたい。具体的には、子どもたち一人一人が最適に、楽しく学習に取り組みながら、目標の実現を図るために評価を行うということである。つまり、子どもの良さを伸ばすということは、実は自己実現を支援することが、評価の役割りであると考えた。

そこで評価の方法であるが、これまでの評価とこれからの評価を比べながら10の方法について述べる。なお、これまでがダメでこれからの良いというのではなく、これまでの方法の上にこれからの方法があるというとらえ方をしたい。

- (1) 知識・理解・技能中心の評価 → 関心・意欲・態度・考える力・表現する力といった・態度や能力を重視する評価。
- (2) ペーパーテスト → 教師による観察 (子どもの発言・学習態度等)
 <客観的> <主観的>
- (3) 学習の結果 → 過程
- (4) 評価を点数で数量的にとらえる → どのように、どのような学習をしているのか、質的に。
- (5) 教師による他者評価 → 子ども自身による自己評価、子ども同士による相互評価
- (6) 評価のための評価 (通信簿研究) → 日々の授業の中での子どもの変容
- (7) マイナス面を直す → プラス面を伸ばす、見つける。
- (8) 単元末、学年末という一時的な評価 → 日常的、継続的な評価
- (9) ランク付け → その子なりの変容、進歩の様子を見る。
- (10) 評価基準 (スタンダード) → 評価規準 (クライテリオン)

できたか、できないか。情意的なものに着目、量的ではなく質的に評価。

最後に、社会科はとかく難しいと言われているが、誰もが気軽に取り組める教科にしたいものである。先生がまず楽しんで授業を行うことから、子どもが楽しさを味わっていけるような社会科が今、求められている。

1 月定例会（香川）の研究内容

1 日時 1月23日（土）14：00～16：30

2 場所 浅野小学校

3 研究授業

单元名 6年「世界の平和を守る
ー平和の祭典 オリンピッカーー」

授業者 小比賀 隆之（浅野小）

提案者 長谷 民子（浅野小）

指導者 池内 博先生（高松短期大学）

4 提案内容

テーマ 「自ら問いをもち、追究する児童を求めて」
ー体験や活動から表現へとつなぐ社会科学習ー

5 討議，指導内容

- ・ 本時は教材選択をふまえた課題選択の学習であった。学び方を学んでいく授業であり，筋としては分かりやすい授業であった。
- ・ 本単元は指導書を熟読して構想すべきところであり，そうしないと授業のねうちがなくなってしまう。内容についての研究はしっかりなされていて，その点はすばらしい。
- ・ 日本だけでなく他国も取りあげたことは児童が選択できる複数教材として適切であった。
- ・ 新聞は他人の立場から自分の初めの考えを見つめ直す資料として適切であった。しかし，児童の視覚を通して感情に訴えるVTRによって考えが大きく変わったのはいけない。VTRは本時の前に見せて初めて論の変化に役立つ。
- ・ 自己評価は自己を調整したり統制したりする力を強化していくメカニズムだから消しゴムを使ってはいけない。
- ・ 他者評価は自他の交流という形をとるが交流のもち方を考えていかなければいけない。

2月定例会（三豊）の研究内容

1 日時 2月6日（土）14：00～16：30

2 場所 豊中町立桑山小学校

3 研究授業

単元名 6年「日本と関係の深い人々の生活」～大韓民国のくらし～

授業者 宮武 昭裕（桑山小）

提案者 木村 勝美（柞田小）

指導者 岡根 淳二（観音寺市教委）

4 提案内容

主張点 他国をよりよく理解するために、何をどのように教材化すればよいか（教材化）

国際理解教育において、社会認識を高める手だては、どうあればよいか（学習方法）

5 討議、指導内容

- ・ 金属器、立て膝、キムチという3つの観点から選択して調べるといことで子どもたちの意欲が高まった。
- ・ 3つの観点は「食」ということで関連があるので、後で交流するといことが可能になるのでよい分け方だった。
- ・ 立て膝ということに対して、子どもたちには疑問があると思うのでチョゴリの服装とつないで習慣の違いを理解させたらよかったのではないか。
- ・ 3つの観点で、日本と大韓民国とを比べるという比較思考は有効な方法である。違いの理解から、その意味へと子ども思考が進んでいくであろう。
- ・ 違いの共通性を見つけるところでの思考が弱かったのではないか。あたたかい、栄養、さめにくいということと大韓民国の冬の寒さ（気候）とをつないで、気候に合わせた大韓民国の人々の生活の知恵を見つけるところが内容として重要ではなかったか。

08:01-00:41 (土) H8月S 朝日 1

対学小山桑立柳中豊 西遊 S

業賢賞得 8

~J6)の贈獻~ [吾輩の主人の類の翁閣と本日] 争の 各示単

(小山桑) 宿御 瓦宮 昔業賢

(小田林) 美徳 村木 昔業賢

(委達市幸音願) 二軒 婿岡 昔業賢

谷内案賢 1

はす山林遊にそものちき同、このさるを頼野とよひよき国御 点業主

(山林遊) 依りよお

あさち、おアス平るぬ高き産臨会持、アノはコ音遊頼野廻園

(志式管学) 依りよお

谷内新詳 義持 6

ちるへ馬丁J児童の依り点願のこもそりちキムキ、翻丁立、器厨金

ス。ま高ぬ燈意のよスよち干すちこそり

ちるを高交す翁、すのるあぬ敷間づちこそりち[倉]お点願のこも

。ス。ス式む依りよおのるおコ誰河ぬちこそり

のそ思ちるあぬ問録おコさスよち干、アJ候コちこそりち翻丁立

のオ。依りよおをサち頼野をの童の贈賢の依りよおと禁遊のしヒモテ

依りよお

候許おき思神出に依りよおへ出きち国別韓大と本日、ア点願のこも

アみ童の善思よち干すへお意のチ、ふ依り頼野のの童。るあア志式お

。そるあア>の

依りよおのオ。依りよおの善思のするこちるわへ見き折置共のの童

辰) ち寒のオの国別韓大とちこそりちのり>コ依りち、養榮、の依りオスあ

ち恵候の吾輩の主人の国別韓大オサは合コ辨辰、ア依りよおと(知

依りよおのオ。依りよおの要重アJち谷内依りよおとちるわへ見

